

「今、私は私と言い切れます」

中学生の少し先を生きる高校生の言葉

先週の「校長室から」で、高校生が介護関係の勉強をしている事を紹介しましたが、9月18日の午後、もう1度、2人の高校生に会ってきました。2人は快く承諾してくれて、高校の応接室で、担当の先生方を交えてお話しを聞いてきました。

今、明成高等学校の福祉未来創志科で学んでいる女子生徒2名です。過日の高校説明会で、この2人が中学校の先生方に向けて学校紹介をしたり、今学んでいる意義を一生懸命に伝えようとしていた姿に心打たれました。

やはり、2名の生徒さんは、説明会の時と同じように、自分の進もうとしている道、そして今の学校生活に誇りを持っているのだなと感じました。

最初に、どうして介護関係のコースを選んだのかを聞いてみました。「私は、小さい頃から祖父や祖母と一緒に生活し、大好きでした。とてもかわいがってもらっていました。子どもの頃からお年寄りと関われる環境にありました。でもあるとき、祖母が脳梗塞で倒れてしまって、看病しながら、介護の事を意識し始めました。」もう一人の女子生徒は「大好きな祖母が認知症になり、あっという間に変わってしまいました。かつての面影もなくなってしまいました。でも中学生の自分には何もできませんでした。大好きだったのに何もしてあげられませんでした。だから…」2人は割と早い時期から介護の道に進みたいと考えていたそうです。

そして、明成高校に入学して、学びを深め、今はコロナ禍で実習もなかなかできない状況のようですが、日々、問題意識を持って生活しているそうです。

2人のお話しは、中学校時代にも及びます。「中学校時代は楽しかったけど、苦しかった事もありました。何が苦しかったかという、悩みがいっぱいあっても、何に悩んでいるかも分からないし、何が不安かも分からないという漠然とした不安がありました。苦しさを乗り越える方法が分からなかった。どんな手段で、どんな方法で乗り越えていけるのかが分からなかった。だから先が見えず、苦しみました。そして、みんな同じように振る舞わなくてはならないのもちょっとつらかったです。楽しかったけど、苦しかった。受験が近くなってきたとき、みんなギスギスした雰囲気もありました。きつかったかな…。でも乗り越えると視野が広がる。ちょっと前まで中学生だったので、中学生の気持ちはちょっとだけ分かります。」

そして二人のご両親の事も語ってくれました。介護の道に進みたいと相談したら「大変だよ。あなたにできる？介護の仕事は介護士だけではなく、事務職もあるから、そっちを選んでもいいんじゃない。」きつのご両親のアドバイスは、ご両親なり子どもへの愛情だったと思います。私も親なので、このご両親の気持ちはよく分かります。でも彼女たちは当時中学生。どんな気持ちだったのでしょか。「一番身近にいる両親に反対されてどうしていいか分からなくて辛かった。一番応援してほしい人が喜んでくれない事がとても辛かった。両親に反対されたのは重い。どうして自分のことを分かってくれないのか。どうして自分を応援してくれないのか。親に否定されて、全部を否定されたような気がしました。自分のためにお金を出して入学させてくれるから、否定され

たらどうしていいか分からなかった。…でも、ちゃんと向き合ったほうがいいと思います。」

親と子、子と親、どんなに愛していても分かり合えない事があります。聞いていて、私も辛くなりました。親は親なりにその時は、苦しいくらいに子どもの事を心配し、何かをしてあげようとしたり、声掛けしようとしたりしますが、なかなかそれが子どもの心に届かない時も多く、もどかしくなります。そして、子育ての難しさに苦悩する事が度々あります。しかし、子どもは子どもなりに考えている事があり、その気持ちを上手に表現できなかつたり、反抗したり、疎ましく思ったり、自分の殻に閉じこもったりします。互いの距離感が分からなくなります。親子だからこそ、互いを傷つけ合ってしまう事もあります。

私は、自分の子どもが受験期に、妻から「学校の先生だから当たり前だと思うけど、クラスの生徒達の進路指導は上手にできるのに、自分の子どもの進路指導はできないんだね。」と、愚痴をこぼされました。なかなか親子は難しいです。いや、親子だからこそ難しいのだと思います。

2人の話は続きます。「でも今は、私の進むべき道を理解してくれて応援してくれています。そして当時どうして両親が反対したのかも分かります。」やっぱり親子ですね。というより、子どもが親を越えていく過程だと思います。

そして、2人は、私をしっかりと見ながら、「介護の仕事は、その方の人生の最後にかかわる大切な仕事。笑顔でいつも接したいし、敬意を持って関わっています。人と人とが関わる事が実感できて、見えない絆でつながっている尊い仕事だと思います。」こんな言葉が自然と出てくる事に、驚きと尊敬の気持ちを感じます。

このような志のある若者に、自分の希望している仕事に就いてほしいと願う気持ちと、もし、途中で自分の夢や志が変わったとしても、今の気持ちを、この時期に持てている事が、今後の彼女達の人生の支えになっていくのだろうと痛切に感じました。

この2人だけではなく、このような若者は数多くいると思います。何かのきっかけで、自分の進むべき道を意識したり、誰かの言葉によって目覚めたり、友達の影響を受けたり、そして家族の影響を受けたりしながら、やがて大きく羽ばたいていくのだと思います。

この2人は、今、充実していると思いますが、逆に中学校時代に輝いている生徒、高校では苦しんでいても、その先の進路で希望を見つける若者、人それぞれ様々だと思います。人が生きていくという事は、挫折したり、喜びを見つけたり、笑ったり、喜んだり、悩んだり、その繰り返しですね。

そして、今、中学生に伝えたい事は…。「中学生は楽しい時期でもあり、苦しい時期。それはきっと苦しさを乗り越える方法が分からないから…。どのようにしたら苦しさを乗り越えられるのか手段が分からない。でも、自分の気持ちは、正直に持ってほしい。人に伝えられない気持ちもあると思う。でもそれをずっと大切にあなたためにおいてほしい。自分の人生だから、自分を大切にしてほしい。今、私達は世界が広がっています。私は私、と自信を持って言える。だけどそれは高校に入学したからじゃなく、大学で理解する人もいると思うし、私達よりずっと早く意識できている人もいます。苦しんでいる中学生には、もう少しで世界が広がるよ、今、楽しい生活を送っている生徒には、このまま人生を楽しんでね、と伝えて下さい。」

彼女達は、私が帰るとき、昇降口まで見送ってくれました。とても清々しい若者でした。このような若い世代とかかわっている私達の職業もまた尊いものだと、教えられたような気がします。

長町中学校の生徒達は、今、体育祭や合唱祭の練習に取りくんでいます。そして部活動は1、2年生の時代になりました。生徒会の役員選挙も近づいています。6月から始まった波乱の1学期もそろそろ終わろうとしています。それぞれが自分の課題に向き合っていくうちに、やがて自分の人生の基盤がしっかり見えてきて、「私は私」と言い切れる大人になっていけるのかなと思います。